

教科	学年	科目	集計結果の分析	後期に向けての課題
国語	1	現代の国語	自らの考えをまとめたり広げたりする機会を与えることができていると読み取れる。だが、これらの力が身についたと実感できたと評価する生徒が少ないため、改善の必要があると考える。	授業中に得た知識や技能を生徒自らが自覚を持って発揮できるような活動を増やしていきたい。そのために、学習のねらいを示すだけではなく振り返りの機会を必ず設け、授業の前と後での自らの変化を実感できるような授業の展開をしていきたい。
	1	言語文化	他者の考えを知り自らの考えを広げ深めることについての評価が高かった。しかし、生徒が授業の中で身についたことを実感することが少し低く、成果を自覚できる工夫が必要である。	単元の目標と評価の観点を明確にし、学習前後の考えや理解を比較する振り返りを取り入れることで、生徒が自身の成長を実感できるようにする。理解度に応じた支援も行い、知識の定着と活用に繋げたい。
	2	論理国語	授業のねらいや振り返りについては、肯定的な評価結果となったが、一方で他の項目と比べたときに、「できるようになったことを実感」できていない生徒が多かった。	学習で学んだことを応用できる課題を設定し、生徒が単元を通してできるようになったことを実感できるようにしたい。
	2	文学国語	はじめに学習のねらいを示したり、毎回の授業や学習のあとに学習したことを振り返る機会が少なかったことが生徒の評価からうかがえる。また、生徒が授業の中で身についたことを実感することがで少なかったことも課題として挙げられる。	生徒ができたことを実感できるような授業の展開に努めたい。また、学習のねらいを明確に示し、事後には振り返る機会を設けて、見通しをもって生徒が学習に取り組める環境を整えたい。
	2	古典探究	授業の在り方については一定の評価を得られたが、指導方法について、できるようになったと実感できたかという項目が少し低かった。学年が上がり、文法事項を多く扱うようになったことが一因と考えられる。	既習事項はもちろん、新たに扱う文法や作品についても、生徒たちができるようになったと実感できる授業方法や内容を検討していきたい。
	3	論理国語(文系)	授業のあり方については、概ね肯定的な評価を得ることができたが、授業の中で身に付いたことやできるようになったことを実感することができたという項目の評価が低い結果となった。	前単元で身に付けたことを活用できるような系統的な学習活動や実践的な問題演習を取り入れることによって、生徒ができるようになったことを実感できるようにさせたい。
	3	論理国語(理系)	毎時間の授業や単元(内容のはじまり)のはじめに授業のねらいを示したり、あとに振り返る機会が少なかったことが生徒の評価からうかがえる。見通しを持って授業に臨みたいという生徒の姿勢の表れと考えられる。	自分の考えをまとめ解決方法について考える場面を多く設定して、生徒が自らの考えを広げ深められるような授業展開に努めたい。
地歴 公民	3	古典探究	既習事項と関連付けて理解することができる点では一定の評価が得られていた。一方で、自らの考えを広げる機会などは改善の必要がある。	他者の考えを知り、自らの考えを深める機会を増やしたい。
	1	歴史総合	授業の中で、他者の考えを知って自らの考えを深める機会や、課題に対して自分の考えをまとめたり解決方法を考える機会があると感じている生徒が多い。	授業の中で身についたことやできるようになったことを実感している生徒が少ないので、学習の狙いを明確に示しながら授業を展開していく必要がある。
	1	公共	授業のねらいおよび振り返りの機会が少ないことが、生徒の評価からうかがえる。毎時の授業で特に何が重要なのか意識したり、授業の結果、何がわかったのか、疑問に思ったことは何なのか振り返る機会がほしいと生徒は感じていると考えられる。	毎時の授業でねらいを示したり、振り返りを実施するのは難しいかもしれないが、最低限単元のはじめでねらいを示し、単元の終わりで振り返りを実施するようにする。特に、振り返りに関しては、Google フォームなどを活用して行えると、生徒間で疑問点の共有などができるのではないかな。
	2	地理総合	授業の中で、他者の考えを知り自らの考えを深める機会があり、かつ既習事項を関連付けて理解できる力を身に付けられたと感じる生徒が多かった。	授業のはじめにねらいを示したり、学習後の振り返りの時間を取れていなかったため、今後は生徒が見通しを立てられるような授業展開を心掛けたい。
	2	日本史探究	ペアワークを通じて、他者の意見を理解した後、単元のまとめを行うことで、自らの考えを広げることができていると感じている生徒が多いことが分かる。	できるようになったと実感する生徒が少ないため、フィードバックを丁寧に行うことや、入試の過去問題などでの演習を通じて客観的に評価できる機会を設けたい。
	2	世界史探究	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた生徒が多かった。また、そのことを活かして既習事項と関連付けながら理解を深められた生徒も多い。	課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面の設定があまり設けられていなかったもので、そのような機会を増やしたい。
	3	日本史探究・精選 α	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連づけて理解できた生徒や、学習の中で他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会があると感じた生徒が多かった。	課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える機会があまり設けられなかったため、今後は学習したことをもとに自分の考えをまとめられるような課題の設定を意識したい。
	3	世界史探究・精選 α	単元のはじめにねらいを示し、振り返る機会を確保できている。このことは日ごろから意識していることなので続けていく。できるようになったことを実感している生徒が比較的多かった。	引き続き単元のねらい、振り返りという流れを継続する。日ごろから知識をもとに解決方法を考える活動を取り入れているが、生徒には実感が少ないようなので、生徒が課題解決しやすい活動を工夫していく。
	3	日本史精選 β	授業の狙いや振り返りの意図は生徒と共有ができていることが分かる。授業の中で身に付いたことが実感出来ていると自信を持っている生徒が他の項目に比べて少ないことが分かる。	前回までの振り返りやペアワーク等で知識を確認する機会を設けていても、できていると自信がつくまでには至っていないことが課題である。授業中での生徒個人への声掛けを増やしたりすることで学習活動への評価の機会を増やしていきたい。
	3	世界史精選 β	単元のはじめにねらいを示し、振り返る機会を確保できている。このことは日ごろから意識していることなので続けていく。課題解決的な活動を取り入れ、一定の成果が出ている。	引き続き単元のねらい、振り返りという流れを継続する。全体的に点数が良いが、後期になって意欲が低下する生徒がいる中で、生徒が自らの考えを深められる活動を取り入れる。

数学	1	数学Ⅰ・A	授業の在り方について、ねらいや振り返り・他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会が少ないと感じる生徒がいることがわかった。また、問題の実習を通して、知識が身についていると実感する生徒がいた。	授業の冒頭と終わりでねらいと振り返りをする時間を設ける。また、演習等で生徒同士が教え合う環境を作り、自身の知識を他人と共有する時間を作る。
	2	数学Ⅰ・A	問題演習を行い、解決方法について考える場面はとれたが、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会が少なかった。	問題解決を図る際、他者と意見共有をする機会を取り入れ、他者の意見を知り、自分の考えを深める学習活動を行う。
	2	数学Ⅱ	授業の中で身についたことを、演習を通して学力が着実に定着することを実感させることができた。一方で、周りの生徒と考えを深める機会を設けたが、上手く活用できず積極的な活動がまだ少なく受け身になることが多かった。	周りの生徒と意見を交換しやすい雰囲気やグループワークを多くし教材の工夫する。また、ICT教材等を活用し、視覚的・直感的に理解できるようにする。
	2	数学B	自分の考えをまとめ、解決方法について考える場面を多く取り入れることができた。しかし、周囲の生徒と知識を共有し、自分の考えを広げる機会がやや少なく受け身になることが多かった。	授業の振り返りを行うことでできるようになったことを実感させるとともに、さらに問題解決能力をつけることを考え、周囲の生徒と意見等を共有しながら理解を深める場面をより設ける。
	3	数学Ⅰ・Ⅱ	生徒指名による板書と解説を中心に展開したため、標準的な解法のプロセスを効率よくクラス全体へ共有できた。	今後は単なる教員解説にとどめず、生徒同士で別解を検討させたり互いに解法を説明し合ったりする意見交換の導入を検討したい。
	3	数学Ⅲ	多くの生徒が授業内容を理解し、活用することができているが、まだ自身で考え解法を導き出すことが出来ない生徒が見られる。	問題や課題を精選し、前期で学んだ内容を用いて様々な応用問題に取り組むことができるよう、大学入試過去問等の実践を取り入れる。
	3	数学C	導入における概念の説明と、板書による基本例題の解説に時間を割く構成をとっており、知識の体系的な整理には効果的であった。	説明を聞くだけにとどまらず、自力で考える機会を確保させたい。
理科	3	応用数学	1、2年時で学んだ知識を用いて、様々な応用問題に取り組んだが、まだ既習事項を使いこなせていない生徒が見られる。	問題や課題を精選し、これまでに学んだ内容を用いて様々な応用問題に取り組むことができるよう、大学入試過去問等の実践を取り入れる。
	1	物理基礎	学習したことを振り返る機会があまりないと感じているようである。問題演習などを通じて、十分に振り返る時間を作る必要がある。	単元ごとに、グループワークや実験を行い、他者の考えを知る機会や、自らの考えを広げ深める機会を設けていく。
	1	化学基礎	授業中にできるようになった実感とそれまで学んだことと関連付けて理解できるとことがうかがえる。他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会については、あまり機会がないと感じている生徒が多いことが分かった。	知識の定着だけでなく、自分の考えを広げられるよう工夫し、課題の解決に取り組む機会を作っていきたい。そのためには、単元ごとに、グループワークや実験を行い、他者の意見を知ることで自分の考えを広げ深める機会を増やしていきたい。
	2	物理基礎	他者の考え方に触れる機会を多く持つことを意識して授業を作っていた。授業内容や最終到達点やや不明確になってしまっていると感じている生徒もいたということが課題である。	目標を明確にし、既習内容や生活との結びつきを理解できるような授業づくりを意識しつつ、他者との考えの違いを実感できるような授業展開を継続したい。
	2	化学基礎	各項目の平均値を見ると、「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会」について、肯定的な回答が最も少なかった。	後期は問題演習が多くなるが、その際にグループで考えさせる時間を設けるなどして、他者と考えを共有し、より深めていけるようにしていきたい。
	2	生物基礎	「他者の考えを知り…」の項目の評価が最も低かった。ことあるごとに、「試験の時以外では、いつでも他者と相談・意見交換をしてよい」と伝えていて、実際に相談等している様子がみられていたので、この結果は意外だ。机を向かい合わせにして授業をしないと、評価されないのだろうか…	より一層、意見交換ができる環境の構築に努めたい。
	3	物理	他者の考えに触れる機会や自ら考える機会を求めている生徒が多かった。授業内容や理解度に関しては高い評価をしている生徒が多かった。	問題演習や実験をした際の考察・結果を共有する時間をより設けていく。視聴覚教材やICT教材を用いて、より知識の定着度を高めるための工夫が必要である。
	3	化学	評価項目の平均値を見ると、「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会」について、肯定的な回答が最も少なかった。	後期は問題演習が中心となるが、教員からの一方的な解説だけでなく、生徒どうしで考えたり、それを他者にも伝える機会を設けていきたい。
	3	生物	授業の中で自身の知識を広げる機会が少ないことが資料から読み取れた。さらに全体を通して、最大評価の4が少ない点も見て取れる。	自信の考えを通し知識を深めるために、施行する機会と共有する機会をより多く設定していく。

保健 体育	1	体育	授業の在り方の項目で、毎時間の授業のはじめに学習の狙いを示すという点で低い数値になった。	主体的に運動・スポーツに取り組む姿勢や態度を身につけさせるために、学習のねらいや目標を分かりやすく提示し、身についたことや、できるようになったことを実感することができる授業の展開を心がける。
	1	保健	「学習のねらいを示したり、学習したことを振り返ったりする機会」については課題が残る。	授業の初めに学習の狙いを明確に生徒に示し、授業の最後に狙いを達成できたか振り返らせる場を設けることで、ただ授業を受けて終わりという状況をなくし、知識として定着させることができる考える。
	2	体育	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた生徒が多かった。自分で課題の解決方法を考えたり、それまでに学んだことも関連付けて理解している。	学習のねらいを示し、振り返りの機会を増やす必要があると感じた。ホワイトボードを活用し、目標を視覚化したり、プリントを活用して振り返りの機会を設定する。
	2	保健	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連づけて理解できていることが伺える。学習のねらいを示し、振り返る機会を設定する必要がある。	プリントや黒板に目標を記載する。プリントやノートを用いて、授業を振り返る時間を設けるなどを意識していく必要がある。
	3	体育	授業の在り方の項目で、毎時間の授業のはじめに学習の狙いを示すという点で低い数値になった。	3年生の後期は生涯にわたるスポーツライフを形成するという点が一つの目標にもなっているので、学習のねらいや目標を授業の開始に明確に設定し、楽しみながら運動にかかわれるようにしていきたい。
芸術	1	音楽Ⅰ	授業の中でできるようになったことを実感できた生徒が多かった。また、他者との交流から視野を広められたとの感想も多かった。	演習活動を通じ、自分の感性や能力を広げられるよう、課題を工夫していきたい。
	1	美術Ⅰ	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができたという生徒が多く、知識を技術に活かすことができているようである。	他者の考えを知り、自らの考えを深める機会を用意しているが、数値が高くないのもう少し頻度をあげて行うようにする。
英語	1	英語コミュニケーションⅠ	「単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」の項目が高く、考えを共有する機会が確保できていると考えられる。一方「授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた」が数値が低くなっている。	パフォーマンステストの実施や、小テストを計画的に行うことで、授業内でやってきたことを図る機会を設け、アウトプットする機会を増やしていく。
	1	論理表現Ⅰ	ふりかえりや自分の考えをまとめる機会について、ポイントが3をわずかに下回っていた。このことは、授業において文法事項の習得が第一義的課題となっており、自分のアイデアを学習内容を用いて活用する機会が少なかったことに起因すると考えられる。	後期においては、スピーチフェスティバルが予定されるなど、これまで学習してきたことを用いて自分の考えをアウトプットする機会がある。こうした活動を生かすとともに、スピーチフェスティバル終了後などは、ふりかえり活動を行い、学習事項の定着を図っていくことが肝要である。
	2	英語コミュニケーションⅡ	「単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」の項目が高く、生徒が考えを共有し、広げられていることが分かる。一方、「学習のねらいや振り返りの機会」の項目はポイントが低かった。	後期は、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会を大切にしつつ、単元の冒頭で学びの意味を提示し、終わりに学習のまとめや振り返りを行う機会を確保していきたい。
	2	論理表現Ⅱ	「授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解」が最も数値が高く、「学習のねらいや振り返りの機会」は数値が低かった。	引き続き、既習事項と学習内容を関連付けられるよう指導するとともに、授業のねらいをしっかりと認識できるように、課題に取り組む際の意識づけを明確にし、振り返り活動を取り入れながら展開していきたい。
	3	英語コミュニケーションⅢ	「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」の項目が3.0をわずかに下回っていた。このことは、授業において生徒に授業内容の有用感をいかにつたえるかが課題となっており、本時の目標やできたことを意識する振り返りの機会が少なかったことが原因であると考えられる。	授業の初めに本日の狙いを明確に生徒に示し、授業の最後に狙いを達成できたか振り返らせる場を設けることで、ただ授業を受けて終わりという状況を変えていくことができる。
	3	論理表現Ⅲ	他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会についての項目は高く、協働的で深い学びをある程度は実践できていると分析する。その一方で、生徒ができるようになったことを実感する項目は低く、達成感を実感している生徒が少ないことが課題であると分析する。	今後も組織的な授業改善に留意して、生徒が「分かる」・「できる」達成感を実感できる授業づくりに取り組む。そして、生徒の希望進路の実現に向けてきめ細かい指導に注力する。
家庭	2	家庭基礎	全体的に概ね良好であったが、例年より試験が前倒しになってしまい、授業数が少なく、単元ごとの振り返りなど余裕のないクラスがあった。	後期の分野では、実習など体験的な学習を増やし、身につけたことを生徒自身で振り返ることができるよう時間を工夫する。
情報	2	情報Ⅰ	他者の考えを知り自らの考えを広げ深めることについて、その機会や実感を十分に獲得させることができなかったとの結果であった。	後期実施予定のプログラミングやデータ活用の単元においては、グループで試行錯誤しながら作業を進め、他者との関わりの中で自らの考えを広げ深められる機会を設ける。